

編集発行人：Japa 日本専門家活動協会 代表理事 芝原靖典

発行元：Japa 日本専門家活動協会 <https://www.japa.fellowlink.jp/>

INDEX

1. コラム「論点提起」：地方における「公共」や如何
2. キュレーション：イノベーション × 地方創生
3. 寄稿：越境 EC が地方創生活活性化のビジネス機会になるために
(ジェイクラブ(株) 代表取締役 山田 彰彦)
4. 解説：数字で見る WBC (ワールド・ベースボール・クラシック)
5. 読者の声
6. Blog 仕組みの群像：何故、人は「木」切るのか、セミパブリック空間には集合知を
7. 「Japa 新型コロナウイルス感染症特設コーナー」の今月の pickup 情報
8. 連携団体及び Japa からのご案内
9. つばやき (編集後記に代えて)

注：担当執筆者名の記載のない項目は、編集発行人 (芝原 靖典) による。

※ 本 Newsletter は、Japa 日本専門家活動協会が毎月 1 日に発行する会員及び関係者向けの newsletter です。3 ヶ月後に当協会の HP <https://www.japa.fellowlink.jp/blank-14> にて公開。

Japa 会員・連携団体 募集中！

Japa は、より多くの方々が会員として習合(ならいあい)・連携・共創できることをめざして
正会員(入会金 1 万円、年会費 1 万円)、一般会員(年会費 3 千円) 及び 連携団体
を募集中です。お問い合わせ・入会をお待ちしています。

入会・連携に関するお問い合わせ・申込み先：Japa 事務局 info@japa.fellowlink.co.jp

1. コラム「論点提起」：地方における「公共」や如何

今日から新たな年度が始まる。コロナ禍も収束の流れにある。コロナ禍前からの総人口減少・少子・高齢化は加速し、世界的にはデジタル社会（技術、企業）の変容も加速している。日本は稼ぐ力が衰退し、所得水準は上がらず、イノベーション（破壊的創造）もなかなか励起しない。当然ながら、大都市圏を除けば、過疎化する。空き家は増え、朽ち、非居住エリアが拡大し、「森」に還る。こうした時代の流れの中、改めて、「地方」とは何か、地方の「公共サービス」、「社会インフラ」とは何か、どうあるべきか。「公共」の問い直しが迫られている。

国土が「森化」し、自然災害が頻発化・甚大化・広域化するときには、人工的な地方自治体の境界よりも、「流域圏」としての対応が重要になる。そうした観点に立つとき、「グレーインフラ」（コンクリート構造物等）だけに頼るのではなく、「グリーンインフラ」との併用が望まれる。そうすることにより、空間・生態・環境の「レジリエンス（適応力）」が高まる。

参考：日本のインフラの今 2023.3.24 国土交通省 <https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/infra/>

消費地・生産地としての都市以外の「日本の田舎」は本来、人はまばらに住み暮らすところであり、「過密」な住まい方・暮らし方が異常であったと云える。過密に集中した人を効率的に輸送する手段として、大量輸送手段としての鉄道、中量輸送手段としてのバスが生まれたが、いまやそうした需要は縮小し、地方の多くの従来型の「公共交通」の維持は経済・財政的に難しくなっている。いつまでも鉄道・バスを前提にした「地域公共交通」云々の時代ではない。

参考：34年前に廃止された最北部の鉄路 もう代替バスすら維持できない 南 尚敏氏 [北海道・浜頓別町長] 2023.3.16 日経ビジネス <https://tinyurl.com/2o9adwvb>

高齢者がまばらに住まう地方において、緊急時を含めて「個の移動」の確保をどうするかが問題であり、もはや群を処理する「交通」ではない。輸送者側に立った「ラスト・ワン・マイル」ではなく、個人の「ファースト・ワン・マイル」（自宅から出る最初の一步）が問題である。

この対応には、新たな事業者による「地域MaaS (Mobility as a Service)」しかない。馬車・舟運時代から鉄道時代に、そして自動車時代に転換した時と同様に、さらには来る電動・自動運転（含むドローン）時代へとイノベーションが起こる時にはプレーヤーも変わる。地域MaaSも同様に、デジタル技術を駆使したビジネスモデルによるサービスを提供する新たな業容の事業主体が起きるのではなかろうか。そうした時に、既往の事業主体対応の法制度にこだわるべきではない。「公共」だからといって、行政の枠・公平とかに縛られるべきではない。

衛星通信（スターリンク等）により、人は山でも海でもどこにいても通信（コミュニケーション）が可能になる。ドローンにより、地形の制約を超えてモノも運べる。残るは、人そのもののリアルな移動の自由さである。移動の自由を支えることが住宅、事務所・工場等の立地や暮らし方の自由さをもたらす。社会インフラ、公共サービスの基本はここにあるのかもしれない。

コロナ禍後の新たな時代の「公共」とは何か、特に人のいない地方における「公共」や如何。

2. キュレーション：イノベーション×地方創生

[地域・社会・地球課題]

- ▼曾野綾子 成績上は秀才でも、大人になっていない人が増えたワケ。「背後にあるもの」も見えず「底にあるはずのもの」も感じなくなった日本人に覚えた危機感 幸福は絶望とともにある 2023年03月14日 婦人公論.jp <https://fujinkoron.jp/articles/-/7909>
- ▼団塊ジュニアとポスト団塊ジュニアの実像 内閣委員会調査室 経済のプリズム 222号 2023-3-7 参議院事務局 企画調整室 <https://tinyurl.com/2myjlu23>

[知・技術・イノベーション]

- ▼重力波、ヒッグス粒子、ニュートリノ質量、銀河中心の超巨大 BH という超発見が続々…「素粒子物理の夢の時代」にトップランナーが語る「夢のその先」 2023.03.06 サイエンスZERO NHK 現在ビジネス <https://gendai.media/articles/-/107049>
- ▼テスラ、次の一手は自動車生産の大変革 「EV 製造コストを半分に」 2023.3.22 日経ビジネス <https://business.nikkei.com/atcl/gen/19/00109/031700207/>
- ▼ハーバード大教授が指摘、日本の大企業が注力する「CVC」から破壊的イノベーション創出が難しい理由 トム・ニコラス教授（後編） DIAMOND online <https://tinyurl.com/2e7vvtzx>

[沸騰する Chat AI ～AGI(汎用 AI)への序章～]

- ▼コンピュータネットワークの父が語る、Chat AI や日本発スタートアップの展望 2023.03.06 Forbes JAPAN <https://tinyurl.com/2gwdk7jn>
- ▼オープン AI が「GPT-4」を発表、性能向上も詳細は非公表に 2023.03.16 MIT Technology Review <https://tinyurl.com/2zrx6384>
- ▼AI プロ集団から見た「ChatGPT の歴史」 たった5年で何が起こったのか 2023年03月17日 ITmedia <https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2303/17/news200.html>
- ▼東大松尾教授「ChatGPT はあらゆる領域にインパクト。やるしかない！」 2023.3.20 日経ビジネス <https://business.nikkei.com/atcl/gen/19/00537/032000012/>
- ▼マイクロソフト、ビジネスツールにも ChatGPT 過熱するグーグルとの AI 開発競争 シリコンバレー支局長 2023.3.27 日経ビジネス <https://tinyurl.com/2odmkjez>

[地方創生]

- ▼山田昌弘氏に聞く少子化対策“失敗の本質” 「最大の原因は未婚化。低収入の男性は選ばれない」 2023/03/06 日刊ゲンダイ <https://tinyurl.com/2eautyqk>
- ▼地域のウェルビーイングを支える地域交通を持続可能なものとしていくため、今何が求められているのか？ 2023年3月7日 EY ストラテジー・アンド・コンサルティング(株) <https://tinyurl.com/2my3jzw3>
- ▼統一地方選始まる！コミュニティ自治という新たな視点 青山 侑（明治大学名誉教授） 2023年3月22日 Wedge ONLINE <https://wedge.ismedia.jp/articles/-/29773>
- ▼地域の包摂的成長 –地域の活力が生み出す若者・女性の「希望」の回復と少子化社会の克服– 2023年3月14日 経済産業省 <https://tinyurl.com/2g79gu3a>

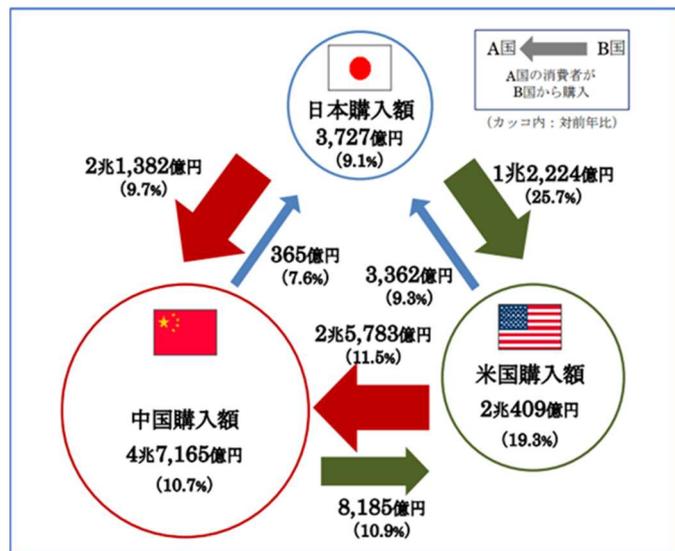
3. 寄稿：越境 EC が地方創生活活性化のビジネス機会になるために

(ジェイクラブ(株) 代表取締役 山田 彰彦)

父が開業した小売業に携わっていた 1995 年、インターネットの普及で「世界中にモノが売れる時代が来る」と考え、自ら越境 EC ショップを立ち上げました。年間 1,000 万円を超える売上を達成しましたが、独学での立ち上げだったため、初年度は苦労の連続でした。同時期に、日本進出を検討していた eBay から創業メンバーとしてスカウトされ eBay に参画、その後、ヤフー株式会社ヤフオク! 事業(現コマース事業本部)で国内 EC 事業の責任者として店舗拡大や取扱高の最大化を達成することはできました。ですが、本来やりたかった海外への販路拡大は実現できず、100 年先を見据えると日本は急速に少子高齢化・人口減社会となり、海外への販路拡大が絶対的に必要になり、海外向けの越境 EC モールや貿易と越境 EC に精通したプロの伴走支援の組み合わせが必要になると確信して、2010 年にジェイクラブを創業しました。

越境 EC (海外販売) とは、インターネットを通じて、企業または個人が自国の商品を中国・欧米・東南アジアなど海外向けに B2C、D2C または B2B のプラットフォームを活用して商品やサービスを海外に販売することです。

世界の越境 EC 市場は新型コロナウイルス感染症拡大の影響がありましたが、経済産業省の調査でも世界の越境 EC 市場規模は毎年 30% の成長で拡大しており、2026 年には 4 兆 8,200 億 US ドルに達するとの予測データもあり、日本国内の EC 市場にとどまらない海外販路拡大・売上増加に繋がる国策として推奨されています。インバウンドで爆買していた中国人他外国人観光客が激減するなか、日本は 200 カ国中、購入先人気ランキング「5 位」と上位にランクインしています。



また、一般的に海外に直接出店したり、現地法人を設立するよりリスクやコストを軽減することができ、かつ商圏は広がるため、初期投資を抑えながら海外展開を狙うことが可能であり、積極的にアウトバウンド施策として、MADE IN JAPAN の日本商品を海外に向けて販売・輸出していく必要があります。

越境 EC の種類

① EC サイト (自社ドメイン)

対象となる国や言語を定めて、自社の EC サイトを構築・展開して海外販売する仕組みです。専用カートとして多言語多通貨、海外決済に対応している Shopify (ショップファイ)、Magento (マジエント)、WooCommerce (ウーコマース) などの EC プラットフォーム (EC カート) を活

用して、BtoC 型のオンラインショップ、または BtoB 型の見積機能や商談機能を装備したプラットフォームを構築します。

自社サイトを構築するメリットの最大の理由は、EC モールと比較して成約手数料がなく、決済システム利用料（約 3~4%程度）のみとなり利益が得やすくなります。また自社ブランドの国際的知名度を高めたい事業者や、EC モールのルールで販売できない商材にもおすすめです。ブランド毀損することもなく、独自の自由なルールの制定、自社で集客はしなければなりません。クーポンやポイントなどの独自販促、大量の固定ページ作成、カテゴリー、LP（ランディングページ）、ブログやニュースなど独自コンテンツを豊富に掲載してオウンドメディアとしても活用することができます。

② 海外 EC モール / オンライン展示会への出店

BtoC 型の場合、海外販売が許可されている EC モールに開店・出品を行います。例として、中国で展開されている、Tmall Global（天猫国際）、Kaola（考拉海購）、京東全球購（JD Worldwide）、淘宝（タオバオ）、欧米で 2 強といわれる eBay（イーベイ）と Amazon（アマゾン）、東南アジアに強い Shopee（シヨッピー）、Lazada（ラザダ）、台湾では Ruten、ロシアでは Ozon などが有力となり、この他に現地ローカル EC モールへ出店する場合があります。

BtoB（法人取引）型の場合、世界三大 BtoB マーケットプレイスと言われる世界最大のオンライン型展示会機能を持つプラットフォーム Alibaba.com（アリババ）、Amazon Business（アマゾンビジネス）、RangeMe（レンジミー）に出展が有力です。

③ 日本倉庫・現地倉庫（保税區）活用型出店

海外販売の発送方法として、越境 EC では基本的には日本発送が大半ですが、在庫が大量にある場合や、中国他海外で本格的に販売する場合には、海外の自社や提携倉庫、海外 EC モール倉庫（AmazonFBA など）、または保税倉庫（主に中国やカンボジアなど）を利用します。指定された保税區の倉庫に商品を予め納品しておき、オンラインショップや EC モールなどで商品が購入された場合、その倉庫からお客さまに商品を発送する仕組みです。現地倉庫も同様に海外 Amazon で利用される FBA などがそれにあたり、配送時間が短く、送料も安価にできる方法です。

④ 転送・買取型

転送型の場合、日本国内 EC モールのヤフーショッピング、楽天などに出店したまま、日本国内の転送業者に商品を買取ってもらい、海外の購入者に発送代行してもらう方法です。販売する事業者は、日本の代行業者の国内指定倉庫に配送するだけで済みますが、代行販売での利益や国内から国内の配送料と高額な国際配送料、手数料などが上乗せとなるため、最終価格が日本の販売価格より高く、購入者は嫌がるケースも少なくありません。また、販売者は幾らでお客さまに販売されたのか、どの国のどのの方に売れたのか、購入後の感想や要望、レビューなどの情報が入手できないことが多く、自立が難しいモデルと言われています。

買取型では、日本貿易振興機構（ジェトロ）などが支援する事業もあります。連携先の EC バイヤーに商品を紹介して卸値でまとまった量を購入いただくモデルで原則国内納品、国内買取で円

建決済する取引です。複雑な輸出手続きが不要ですが、日本一最安の卸値提示と巨大な在庫量を要求されることが大半で応じきれない事業者が多いようです。また交渉が成立しても、転送・買取型同様、どこの国の誰に、何が幾らで売れたのかの情報や、顧客との接点は持てませんので、割り切った卸値取引をすることが求められます。

⑤ 越境 EC 委託販売代行サービス

ジェイGrabとJTBが共同運営する越境 EC 委託販売代行サービス「j-Grab Mall」は、日本から世界に商品を販売できる日本企業が運営する唯一の越境 EC モールです。オンラインでの出店・販売とあわせて、海外の実店舗に商品を展示して、QR コードで購入できる「ショールームストア販売」も同時に実現しています。

株式会社 JTB とジェイGrab株式会社の共同事業で、「東京都越境 EC モールモデル事業」に選定、東京商工会議所や仙台商工会議所など「ぴったり DX」デジタルサポートプレミアムに採択され会員優待価格で幅広く提供開始しており、日本企業による運営のため安心して海外販売に専念していただけます。

越境 EC 事業を行う上でネックになっていた、自らが EC サイトを構築したり、海外 EC モール出店、外国語翻訳、商品カタログ作成、受発送業務、プロモーション、海外配送や貿易実務などを行う必要は一切ありません。

日本語の商品情報と写真を提示するだけで、ジェイGrabがワンストップで j-Grab Mall とそれに連携する海外主要 EC モールに商品を代理掲載でき、世界中の通販プラットフォームや SNS、ショールームストアで徹底的に販売促進を行います。



購入された後も受注業務、国際決済代行業務、国内倉庫から海外への発送指示、お客様とのやりとり、販売事業者への連絡などをワンストップで請け負いますので越境 EC 事業の体制を整える必要もありません。詳しくは <https://www.j-grab.co.jp/mall/> をご参照ください。

ジェイGrabの使命は、日本の優れた商品やサービスを越境 EC を通じて、世界中のお客様に届けることです。日本が直面する人口減・少子高齢化など社会的な様々な問題に対応できる持続可能な事業とするため、越境 EC に必要なすべてのサービスをワンストップ・伴走型で支援しなければなりません。同時に地方創生・地域を活性化させるためのエンジンになりたいと考えています。全世界的には困難な時期が続きますが、事業者様に寄り添い、未来に希望を持って如何なる問題も共に乗り越え、より良い未来に向けて歩いていけるものと確信しています。

4. 解説：数字で見るWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）

WBC（2023 WORLD BASEBALL CLASSIC）で日本が優勝した。大いに盛り上がり、まだ余韻が残っている。その盛り上がりを数字でみる。参考：大会概要 <https://www.wbc2023.jp/overview/>

そもそも、WBC は野球競技の世界的な普及を目的に、サッカーの FIFA ワールドカップをモデルに創設され、2006 年に第 1 回大会が開催された。これまでに、4 回の WBC が開催されている。

WBC の日本戦全 7 試合の視聴率がすべて 40%を超えた。日本戦全 7 試合をリアルタイムで視聴した人の推計は 9,446 万人（ビデオリサーチ社）。最高視聴率は準々決勝の日本-イタリア戦の視聴率は 48.0%。準決勝の日本-イタリア戦で村上選手が打ったサヨナラ 2 点タイムリーの動画が試合を全米中継した FOX スポーツの MLB 公式ツイッターで 2,200 万回再生（日本時間 22 日午前 6 時時点）された。大谷選手のインスタグラムのフォロワー数は 2 月末で約 180 万人だったが、現在は 520 万人に（3 月 27 日時点）。MLB 選手初となる 500 万人超えとなった。年収も大リーグ史上最高額の 6500 万ドル（約 85 億 1500 万円）で 1 位とのこと。納得するしかない。

3 月 09 日（木）	中国戦	（TBS 後 08：09～11：00）	41.9%
10 日（金）	韓国戦	（TBS 後 07：37～11：20）	44.4%
11 日（土）	チェコ戦	（テレビ朝日 後 07：09～09：54）	43.1%
12 日（日）	豪州戦	（テレビ朝日 後 07：08～10：00）	43.2%
16 日（木）	イタリア戦	（テレビ朝日 後 07：09～09：54）	48.0%
21 日（火）	メキシコ戦	（TBS 前 08：25～12：00）	42.5%
22 日（水）	米国戦	（テレビ朝日 前 08：25～12：08）	42.4%

出典：スポニチ <https://tinyurl.com/2klo574h> 東スポ <https://tinyurl.com/2he8d563>

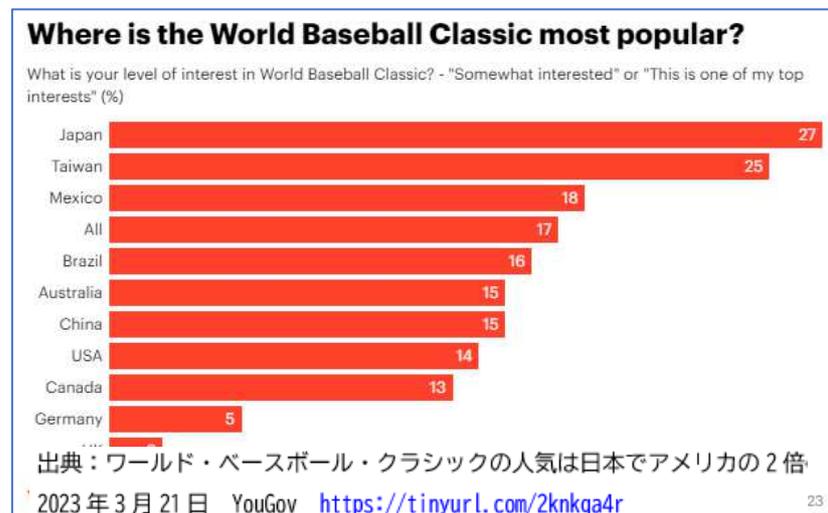
日本以外でも、前回（2017 年）大会と比較して、視聴者数が大幅に伸び、関心度も多くの国で高まっている。サッカーのような世界のスポーツ化に向けて重要な大会であったと云える。

「勝者は日本だが、野球というスポーツ」でもあった。次回大会は、2026 年。

**視聴者数の伸び
（対 2017 年大会）**

1. 台湾 151%増
2. メキシコ 103%増
3. 米国 96%増
4. カナダ 44%増

出典：2023 年 WBC は大成功、各国で視聴率・観客数・グッズ販売が過去最高 ForbesJAPAN:
<https://tinyurl.com/2z62bsna>



5. 読者の声

【読者の声】鉄道開業 150 年に想う 第 5 話 東海道新幹線 後編（作詞・作曲家 高橋育郎）

東海道新幹線の工事は、難工事を極めながら着々と進んでいった。

路盤を出来る限り水平に保つため、山を切り開き、それからトンネル工事だ。

こうした工事には、しばしば水攻めにあった。水との闘いが多かったのだ。

しかし、技術力をもって成果を挙げた。

そして開業の一年前に試運転が始まった。鴨宮に基地を作り、ここを試運転場にした。

ここで私に奇跡が起きた。

私はそれまで関東支社で職務分析の仕事に当たっていた。給与体制を年功序列から、職務の内容に見合った職務給に給与体制切り替えるための基礎データを作る仕事だ。この仕事は 2 年で終わった。その時、次の仕事は何を望むか聞かれた。私は広報を望んだ。広報と言えば本社の広報部である。話はすんなり進み、いよいよ転勤の日がきた。上司は私を連れて本社に向かった。ところが分岐地点で足が止まって、きびすをかえすように関東支社方向に向かった。

そこで上司のいうには、関東支社の広報は、一人体制を三人体制にするということで、私をそちらに当てることになったのだ。

何かいいことがありそうだと予感しながら、行ったところ、そこで奇跡が起きた。

新幹線 PR の実務的活動は支社が行うことになり、その仕事に私が選ばれたのだ。

ここでの大きな仕事は、鴨宮試運転基地を PR モデル・コースにして、試乗会を行うことになった。広く世間を対象に、新聞記者や学校の教師、漫画家や落語家などから、一回当たり 30~40 人を選んで、試乗してもらい、終わったあとは、レストランで饗応し、ここで PR をするという仕事である。これを月に 2 回平均行った。この仕事を任せられ、さらに広報誌や、「新しい経営」という管理者向け月刊誌の編集発行人になった。直接の上司は総務調査役が当たった。

試乗会に参加された方に、記念品として、ネクタイピンとカフスボタンをプレゼントした。

新幹線が風を切って走るさまをデザインしたのだが、それを上司から頼まれて私がデザインした。広報誌には、毎回文章を載せ、カットも描いた。

愉快だったことは、業界新聞に「機関士一代」という詩の投稿が載った。私はこの詩に曲を付けて、NHK「あなたのメロディー」に送ったところ採用され、作詩者と呼ばれステージに立った。歌は旗輝夫。これが、アンコールになったのだ。まさかと思ったが、選者に鉄道ファンが多かったのかもしれない。放送されたのは、新幹線が開業した 5 か月ほど後のことだった。

新幹線の PR では、映画がつくられた。こちらは本社広報部と外務部が担当した。 <続く>

6. Blog 仕組みの群像：何故、人は「木」切るのか、セミパブリック空間には集合知を

神宮外苑の杜が新たな段階に入った。「木」の取扱（伐採・移植）に関する議論が続く中、施設の取り壊し工事が始まった。東京オリンピックの際の旧国立競技場の建替え・解体騒動を想起する中、養老孟司氏の言葉にハットさせられ、触発され、ブログに整理しアップした。

Blog 仕組みの群像：何故、人は「木」切るのか、セミパブリック空間には集合知を
<https://shikumi-gunzo.hatenablog.com/>

7. 「Japa 新型コロナウイルス感染症特設コーナー」の今月の pickup 情報

<https://japa-fellowlink.wixsite.com/website-2>

- ▼コロナ禍による社会的孤立は改善傾向だが、孤独感は増悪：5万人への全国調査より判明
東京都健康長寿医療センター研究所 2023年03月14日 <https://tinyurl.com/2zd4n7s5>
- ▼コロナワクチン、少なくとも7783万回分廃棄 2000億円超か 毎日新聞 2023/3/18
<https://tinyurl.com/2p3qj8ls>
- ▼会計検査院法第30条の2に基づく国会及び内閣への随時報告 「新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種事業の実施状況等について」 令和5年3月29日 会計検査院
<https://www.jbaudit.go.jp/pr/kensa/result/5/r050329.html>

8. 連携団体及び Japa からのご案内

▼Japa の会員募集

Japa は、会員 [正会員、一般会員]、連携団体を随時募集しています。

※ 正会員：入会金1万円、年会費1万円 一般会員：年会費3千円

お問い合わせ先：Japa 事務局 info@japa.fellowlink.co.jp

9. つばやき（編集後記に代えて）

世界のトップに立つプロアスリート「ユニコーン」大谷選手のフィジカル・メンタル・影響力はすごい。その他の日本人選手もすごい。かつての小技と根性に頼った「スモールベースボール」とは全く違う「パワーベースボール」に進化している。選手を発掘し、「個」を活かしたプロデュースをした栗山監督もまたすごい。すべからく、新陳代謝しながら進化していくことのよさを再認識させられた。

片や、知（将棋）の勝負の世界においても、藤井聡太五冠（20）＝王将・竜王・王位・叡王・棋聖＝が3月19日、棋王戦で渡辺明二冠（38）から「棋王」を奪取し、20歳8カ月で六冠を達成した。羽生善治九段（52）の最年少記録を29年ぶりに塗り替え、史上2人目の六冠達成者となった。4月5日からは、渡辺名人に藤井6冠が挑戦する名人戦も始まる。7冠も視野に入っている。こちらも稀代の棋士はAIを超えた進化をしている。

日本中が余韻に浸りながら新年度を迎える。他の分野でも、「過去の成功」や「憧れ」を捨て、新たな時代に向けて恐れることなく挑戦し、日本全体が新陳代謝しながら元気になって欲しい。

編集発行人：Japa 日本専門家活動協会 代表理事 芝原靖典

問合せ・連絡先：info@japa.fellowlink.co.jp

発行元：Japa 日本専門家活動協会 <https://www.japa.fellowlink.jp/>

Copyright © 2023 Japa 日本専門家活動協会